社会科学学習指導案

実施日 平成23年2月8日
実施クラス 2年4組
授業者 水沢澄江

1 指導単元

第二次世界大戦と日本
アウシュビッツについて考える

2 単元設定の理由

社会科の目標は、指導要領の中に「広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し・・・国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」となっている。

近現代の歴史学習は、とりわけ、ただの知識としてではなく、学習したことを生き方に反映させ、公民的資質を養うのに役立つものでなくてはならない。

第二次世界大戦については、終戦後65年経っており、体験した方も高齢であり、身近な人から話を聞く機会もまれで、今の生徒は事実をほとんど知らない。具体的な資料を使って、丁寧に事実を伝えることが大事だと考える。

ドイツのファシズムの中で起こったのがヒトラーのユダヤ人に対する政策である。生徒は、ヒトラーの名前と、「アンネの日記」については多少の知識を持っているが、詳しい事実はほとんど知らない。かなり衝撃的な写真資料もあるが、実際に起こったこととして、いくつかの「なぜ」を考えさせるとともに、日本の日中戦争での南京事件との関連も考えさせる。

3 単元の指導目標 (5)カ

経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の集結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民生活などをして、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる。

世界恐慌からどのようにして第二次世界大戦に至ったのか歴史の流れと背景を理解させる。

写真資料や証言、記録などから、具体的に起こった事実を知り、想像する。

実際に起きた歴史的事実について、どうしてそうなっていったのか、を考えさせる。

4 単元の指導計画

第1時	世界恐慌	第7時	第二次世界大戦の始まり
第2時	ファシズム	第8時	アウシュビッツを考える 本時
第3時	満州事変	第9時	太平洋戦争
第4時	軍国主義の高まり	第10時	戦争と国民生活
第5時	日中戦争	第11時	沖縄戦、原爆
第6時	総動員の戦争体制		

5 単元の評価

A評価 ワークシートに自分の考えを書き、自主的に意見を発表することができる。
さらに紹介された本を読み、考えを深めることができる。

B評価 ワークシートに自分の言葉で考えたことを書き、指名されれば発言することができる。

C評価 個別に声を掛け、ワークシートへの記入を促す。

6 授業改善のポイント

- (1) いくつかの問いについて、考えて自分の言葉で記述し、それを発表する。
- (2) 学習内容の定着が課題である。視聴覚教材を多く使い、イメージをわかせて考えることにより、学習内容を生きた知識として定着させる。
- (3) 「発言・質問」が苦手であるので、全員が発言できるようにする。

7 本時の授業

(1) 本時のねらい

アウシュビッツの出来事を、歴史的背景の中で捉えさせる。
 視聴覚資料から、現実を知り、事実から感じさせる。
 どうしてこういうことが起こったのか、考えさせる。
 色々な考えを知る。

(2) 本時の展開

	学習事項	教師の働きかけ	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	・ 本時の学習目標を知る	・ 収容される子供の写真を見せる。 ・ 既習のファシズムについて確認する。	・ 驚く、かわいそう ・ 怖い、ひどい ・ ヒトラ -、ドイツ、ユダヤ人弾圧...	・ 同じ年代の子たちである ・ 簡単に確認
展開	・ 強制収容所の実態を知る	・ 強制収容所について説明 ・ 写真資料を使う ・ 記録を読む	・ 説明を聞く	・ 実物投影機 ・ 証言
		・ 見たり、聞いたりして感じたことを書かせる。 ・ どうしてこういうことが起こったのか。なぜ、人が人にこういうことをなし得るのか	・ ワークシートに書く 信じられない 悲しい、残念、差別、戦争で殺すことがあたりまえになってしまった ・ 発表をする	・ 挙手をする ・ いなければ指名をする
	・ コルベ神父とコルチャック先生	・ 2人のやったことを紹介する。 ・ どう思うか、自分だったらどうするか 考える。	・ ワークシートに書く すごい、優しい、勇気がある、自分ではできない ・ 発表をする。	
まとめ	もう一度考える	・ 友達の意見を聞いてもう一度考える	・ ワークシートに書く	集める、次の時間に若干触れる

8 , 授業を終えて

視聴覚教材は強烈で、教室の雰囲気が一挙に変わった。食い入るように説明を聞き、しっかりと意見を書いていた。内容的には「どうして」という部分は、難しい。